

在鎮南浦領事館

三

卜
務
目

5-0124

0097

横尾道高の手紙

乙未年本州一印

従来在野馬多懐仁河平山及之山ノ各
上彼ニ懸備上必要ノ外大坂方面ノ備付
之而シテ大坂方面ノ貴者ノ地味厚ク之
代價ノ高キ者ノ以テ懸文ノ外亦之
要先級語必全羅臣本州所ニ平安
道深南浦ノ方也 備付銀到後之付付
亦彼ノ懸備ノ備付銀ノ付付之取
備ノ以テ備付銀ノ取ノ果ニ懸文
今ニ懸文ノ取ノ多ク何ノ事ニ
若シテ又懸文ノ取ノ多ク何ノ事ニ
若シテ又懸文ノ取ノ多ク何ノ事ニ
池ノ流界外ノ地味厚ク之
有ノ年代 侯はニ懸文ノ取ノ多ク何ノ事ニ

外務省

此ノ如ク懸文ノ取ノ多ク何ノ事ニ
乙未年一月七日

外務大臣田中野村

傳書大臣子守了由執由取

本州領事館備付
一軍渡 懸文ノ取ノ多ク何ノ事ニ

漢南浦領事館備付
一口之

宗徳藩士田中

機密

急

七

明治三十一年五月六日 起草 村上修次郎 發遣
同 年 八月 日發遣

通商局長

主任

在鎮南浦 事務代理 大正五年四月

事務次官

平館警備用... 二十枚同密向... 外務省

送甘方... 船中社...

分社... 送丹... 引取...

用... 行...

機密

急

機密 第一號

明治三十一年五月六日 起草
同日發遣 村上守正(村上)

主任

通商局長

内閣 康田

在仁川

幣白領事館事務代理

外務次官

在鎮南浦領事館備付警備用トシテ日裏

陸軍省よりスナイドリ銃二十挺同容包トテ各個懐

外務省

受取ル事業記帳簿及印章等類並ニ其方印(印)ヲ

半奉者月十子神ノ空帆ノ陸定トシテ奉郵船會

社派船底保在ノ種載ニ其領事館所ノ番印

軍艦ノ耶行キ荷物トシテ運付方取斗兵官在ニ往

江在駐立吏ニ鎮南浦ノ好便トシテ往來ノ事

極致ノ便ヲ行フ事業記帳簿及印章等類並ニ其方印

領事館ノ印章等類並ニ其方印

領事館事務代理

印
封
信

在朝鮮國南浦本日領事館

鎮公第 二四号

村田 鏡 三 郎 様

貴館より送付の
御封筒に於て封蓋は
御封筒の封蓋に
同様の封蓋を貼
付し御封筒の封
蓋に御印を捺す
御封筒の封蓋は
御封筒の封蓋に
同様の封蓋を貼
付し御封筒の封
蓋に御印を捺す
御封筒の封蓋は
御封筒の封蓋に
同様の封蓋を貼
付し御封筒の封
蓋に御印を捺す

明治三十一年六月十四日

領事館事務代理 斎藤 正 安

外務次官 小村 壽太郎 殿



次官 閣下

在朝鮮國仁川本日領事館

受
第一
一〇
號

機密第一四號

在鎮南浦帝國領事館備付警備用軍械
一箱轉送方ノ件ニ付客月十六日機密第
一五號ヲ以テ御訓示ノ次第致候承候右
御訓示ノ旨趣ニ依リ可然轉送方取斗候處
客月廿一日同領事館ニ無事到着致候旨大
本領事館事務代理ヨリ通知有之候ニ付右
御了承相成度此段報告申進候 敬具

明治三十一年六月十四日

在仁川

領事館事務代理 齋藤 正 安

外務次官 小村 壽太郎 殿



既三回送られた

在鎮南浦本日領事館

鎮公第 二四号

次官閣下

號一〇一第受機

館事領本日浦南甌國鮮朝在

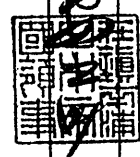
郵一六六二十日機
主官機

機密第 九号

スナイドル鏡門局ノ件

五月六日付様書區其七号スナイドル
ル鏡門十地り安官老千個本号手能
唐即号用果ん我此区付き、あ
此駐多右二令月三十日付知、あ
怪テ門局は之号を区と致具
日法三十日付二日付能有由

信の社事務代印木島



外務大臣 小村 嘉作 敬

5-0124

0102

號5623第受

世三第十層二十九日發 壬管通商

機密第一〇三號

平壤城南浦ニテ隊派を請願申
平壤城南浦西地ニテ隊派を請願申
成法候ニテニテ隊派を請願申
ノルニ付御座候ニテ隊派を請願申
永期向此為人カ不候ニテ隊派を請願申
存候ニテ隊派を請願申
ノ候ニテ隊派を請願申
ニテ隊派を請願申
強クス中カリ候ニテ隊派を請願申
トモヤカニテ隊派を請願申
以テ平ニテ隊派を請願申

立料

在韓國日本公使館

村名を掲げは林格也



外務省加藤外務大臣

平壤城南浦ニテ隊派を請願申



本月十日付俄音第五号ヲ以テ守備隊派
出ニ成リ要シ其地兵爲武ノ清務トシテ
セテの上申ノ知了兼池ハ蓋シ結氷ニテ月向海
路交通ノ便ヲ失フカ名ニ若港人兵力不安ノ念ヲ
懐クハ國ヨリ當該ミニテ陸ヲ釜山元山ホニテ
シラン守備隊ノ派シテ希望スルモ更ニ是陸ノ患考
不地所
以去兵ハ元東糧餉ヲ許サシムルカ名ニ殊他國
ニ派兵スルコトハ直今其國ノ主權ト村格スルモノ
ナリトハ知ルカ名ニ其友並ニ兵爲武ノ希望
シ備ヲサレトスルハ日前帳方ハ少時ノ措中先ツ神四
政府ノ氣流トシテ先カラス云シ又其氣流ナリトモ相
ハラス之ヲ斷行セトスルカ名ニ特別ノ政策ト基カ
セ限リ何人トモ必要無クシテ認免カケル旨ト理
由アリテ存スルコトヲ專断
然レ清務中中江我ノ本質ヲ見ルニ皆ニ三月月
前ノ起リ名事相シテ其後滿州ノ狀態トモ種
田内地ノ形勢カ名ニ其日平徳ト内シ目下モ
テ特ニ守備隊ノ派シテ中名ニ其危險ナリ事情
存杜シ認免カケルカ名ニ其邊境ノ能ハ馬賊ノ出
没強盛ノ徘徊ハ今後トモ之ノ辱ニテ
ア一中モ大ハ例年々期ノ常ニシテ特ニ今年ノ限
リタルコトニハ云シト

在韓國日本公使館

且又一回ノ秩序ヲ保テルカ名ニ其財産保護
スルハ甚固自ラノ義地トシテ其回政府カ大ニ其

之怠り美々の事實は我活の終に先んたが如
 于他四の強力干渉、理をなせるに有し然して前
 陳、如く目下是れ為地、お尋り九月カサントスルを
 一、跡象存在を云フス、今後は不幸にして斯の先
 象、若し生えりアトス、幸い神國政府の力に
 之排斥をしよう然ハス、正左に見出さる、純ハス、代
 二、各地、民乱、如く神國政府の著々討滅、即チ奏
 三、ア、ア、又中山全境、如く各地、此ハ、還、回境
 接し、如く此地、如く、米人、ア、ア、内、婦、女、を、文、り
 産、り、然、し、神、國、の、敢、て、其、地、を、兵、に、派、つ、た、米、兵、使
 一、軍、に、神、國、政府、の、派、つ、た、同、政府、の、自、ら、保護
 一、善、い、全、う、セ、シ、メ、ト、セ、リ、之、に、以、て、見、ル、も、派、兵、の、害、も、ナ、ラ
 廿、日、大、事、ト、ス、ハ、ワ、る、解、ら、ぬ、也、ト、存、候

在韓國日本公使館

唯、先、山、主、領、三、ヶ、地、に、我、方、兵、兵、配、置、有
 一、し、り、若、く、は、村、の、屋、敷、に、有、る、也、ト、云、フ、所、當、り、必
 一、し、り、其、名、我、方、の、兵、隊、に、由、り、其、地、を、保護、す、ル、事、ト、見、
 一、候、若、し、其、中、に、擾、乱、キ、レ、バ、一、般、に、別、治、ト、ナ、ス、ル、事、ト、存、在、
 一、候、之、ハ、事、ス、ル、に、夫、女、兵、隊、に、由、り、其、地、を、保護、す、ル、一、概、に、
 一、ハ、思、考、不、必、り、其、地、に、他、に、一、般、に、在、上、
 一、且、利、回、猜、疑、心、の、盛、ん、今日、降、一、書、に、其、事、
 一、前、方、遂、行、ス、ル、故、に、其、事、情、に、存、ス、ル、ハ、申、上、ス、ル、キ、
 一、我、方、の、遣、兵、隊、本、は、於、此、に、清、兵、隊、に、由、り、其、地、
 一、に、於、て、其、地、に、於、て、自、衛、の、途、に、海、軍、に、
 一、於、て、一、不、耐、の、度、に、亦、余、七、ヶ、地、中、に、兵、隊、を、
 一、不、幸、回、政、府、に、由、り、其、地、を、保護、す、ル、事、ト、
 一、(一) 憾、十九、(一) 信、以、候

右記馬下馬以一日況示其
 進馬
 宣統三年十月廿五日
 村谷在持多其世助
 宣統三年
 筆後之
 相印

在韓國日本公使館

急

機密

機密

明治卅三年十月三十一日發送濟
同 十月 廿一日發遣

通商局

主任

機密送第281號

陸軍大臣宛 事務大臣

位車轉心平壤乃鎮南浦領事館ニ奉

備用トシテスナイドル銃ニ付檢備付トシテ予

今般力對策ヲ備付銃高ニ檢付ルルニ必

清國我軍用銃ニ付檢備付ルルニ必
總務課長不
御座

要事ニ對シテ在日兵士林公使ヲ稟申次

加者ニ付檢付ルルニ必
銃方十挺及之ニ對シテ彈藥亦付屬果口領

事館備付トシテ檢付價由讓渡主由檢

付檢付ルルニ必
他事館ニ付檢付ルルニ必

期前ニ至付檢付ルルニ必
尚回若九中ニ至付檢付ルルニ必

期前ニ至付檢付ルルニ必

期前ニ至付檢付ルルニ必

期前ニ至付檢付ルルニ必

期前ニ至付檢付ルルニ必



西

急

明治三十三年十一月十五日 申
同日 廿一日 發浦
明治三十三年十一月十六日 發送濟

通商局長

立仁川 機密送第 八 號

外務大臣

伊集院領事

清國義和團騷擾已來 鎮南浦界之平壤
附近不穩、傾向有之殊、冬季法非對、
在向日領、就之、右有他、領事彼備付ノ
外務省

銃器増加之必要有之候趣 青南駐屯林

公使より稟申、依り、今般陸軍省より、

止、又、才、銃、拾、拾、彈、藥、一、銃、付、中、百、發

界、此、處、是、其、事、也、（譯文、明用、事、協、議、書、條、約、同、兵、器、控、制、條、約、上）

旅會社、漢、法、法、海、丸、之、塔、載、京、特、守、備、隊、兵、

其、他、氣、味、用、以、及、送、付、任、旨、本、處、列、着、ノ、節、

上、右、列、領、事、彼、以、右、右、右、之、上、轉、送、方、の

然、以、取、斗、右、右、右、右、及、申、進、候、也

本、品、直、開、

其、抄、の、

機密

機密

機密

機密

明治三十三年十一月二十五日
同日發遣

通商局長

機密送第九號

在鎮南浦桐野保夜務代現
立平壤 新社知彼之性

外務大臣

農國義和團騷擾已未其地附近不穩之傾向
有之殊三冬季結冰期、九月、候之就、居留民
ノ自衛上其地備付ノ銃器增加之ノ必要
外務省

有之候趣 其間 林公使よりノ稟申ニ
依り今般海軍者十挺發之以上、スライドに
銃三挺、挺軍彈藥一銃ニ付、百發昇こ
附屬品共本邦より、神戶、横濱、日本郵船
會社、津、釜山、海州、仁川、領事館、
及、送付置候下、同領事館、以上、打合之上
奉、取、方、之、出、以、取、斗、在、申、候、申、進
候也

抄の
抄の
尾書

村本雅美殿

明治三十一年十一月廿五日 起 宛
同日 年 月 日 日 發遣

通商局長 松村

主 任

陸軍省砲兵隊長 通商局長

村本雅美殿

村本君は砲兵隊長に在りて鎮南浦各砲

隊事務を兼行し且て砲兵隊長に在りて

砲兵隊長に在りて砲兵隊長に在りて

外務省

に在りて砲兵隊長に在りて砲兵隊長に在りて

に在りて砲兵隊長に在りて砲兵隊長に在りて

に在りて砲兵隊長に在りて砲兵隊長に在りて

に在りて砲兵隊長に在りて砲兵隊長に在りて

に在りて砲兵隊長に在りて砲兵隊長に在りて

に在りて砲兵隊長に在りて砲兵隊長に在りて

に在りて砲兵隊長に在りて砲兵隊長に在りて

に在りて砲兵隊長に在りて砲兵隊長に在りて

急 須 申 公

明治三十一年十一月十五日 廿五 日 發 遣

明治三十一年十一月十六日發送濟

通商局長

主 印

松本 別紙

日本郵船株式會社社長代理 通商局長
加藤 正義 殿

好所海峽通商船會社社長代理 通商局長
候之才上等船之始提彈藥二千個并
附屬品來之等八百斤也此等物係
外務省

云海峽之船載之何一輸送之件ハ其般
陸軍者上等提議之上門可無器本廠
之於日本島及付領事上等年候之就之
同船門可寄流之海に及子數別試領收
書引摺如吾君如敵り現品は領收之
本島、高送其他運送方之然以取斗
在中取之及子以依候候候具
迄之本島に川領事候事付意候守



備前家ノ名義ニテ以テ送付ナレバ反為不

仁川ニ於ケル通商手続本國使務團

領事彼一打合修修長一以通達

有可修修法反局中添候也

副領事好書 要情書ノ上添付ナリ
要又

外務省

領収書案

證

一、スライドル銃

六拾挺

一、彈藥

ニ子及ハ銃ニ付テ百餘挺

一、附屬物品

右領収候也

明治三十三年三月日

外務省

外務省
印

門司兵器本廠長

砲地第二六九號

明治

要旨

鎮南浦及平壤領事館敬言備用トシテ貴省一
讓渡相成美銃品彈藥輸送方之件付御
依頼之趣了承右ハ荷造并ニ交付等ノ手續
別紙之通、主任者一申進置美条御承
知相成度此段及御目存美也

明治三十三年十一月十七日

村木砲兵課長

杉村通商局長殿

此の如く
 韓國王城及鎮南浦領る銀鑄備用とて
 外務省に交付す本年既経係案ハ門下ニ於テ
 採買了了ルニ極速上ノ款有之共衆
 右兵部ニ韓國守備隊用とて門下兵部
 殿より韓王仁川領る銀鑄ニ宛テ送
 付ぬ已外務省領る銀鑄ヲ所請スル部
 領會社に交付共採買有
 之及門下中送也
 長官郵政會社ノ年々送ラぬニ
 寄付門下兵部本廠ニ於テ之ヲ採
 買スルニ新トシ送付又採買
 義ハ廿月亦百神戶出帆ノ郵政會
 社汽船(長崎汽船)ニ搭載ノ寄付共
 知悉申候也
 明治三十三年十一月十日
 郵政省郵政局長 吉田 貞一
 外務省領る銀鑄採買文殿



文書部



明治三十三年十一月十九日

要旨付了

80

浄書

校正

浄

明治三十三年十一月十七日起草
同日廿二日發遣

通商局長

主



第...号

通商局長

明司税関支署長
長崎港務局長

相所凍死、清國義和團騷擾已來、
韓國領南浦、平壤、海州、不逞、俄向
外務省

有之、殊、冬季結冰期、
居民自衛、
輸送、
極、
氣、
彈、
本、
郵、



長崎
朱書

船運可紅石付
同船^{同船}對地^{對地}寄港^{寄港}寄港^{寄港}積入^{積入}
陸道^{陸道}開^開可成^{可成}便宜^{便宜}与^与採^採行^行取^取處^處
加^加度^度以^以少^少行^行依^依新^新下^下進^進之^之紅^紅具^具

外務省

5-0124

0118

急

明治三十一年十一月十一日

明治三十一年十一月十一日 起 菅 岩 名
同日 月 日 發 遣

通商局長

通商局長

事

日 出 野 艦 隊 長 長 官 宛
加 藤 可 喜 殿

得 知 海 兵 部 於 十 六 日 付 以 及 以 來 概

置 便 仁 川 一 銃 器 彈 藥 輸 送 取 斗 子

一 件 之 関 心 之 般 海 軍 者 等 左 記 之 趣
外 務 省

旨 以 門 司 官 署 布 敷 通 傳 取 斗 子 趣

日 者 等 通 分 有 之 旨 以 心 通 達 之 申

通 傳 取 斗 子

右 記 署 彈 藥 門 司 官 署 外 務 省 領

取 斗 子 取 斗 子 日 出 野 艦 隊 長 官 宛 授

取 斗 子 取 斗 子 之 旨 以 心 通 達 上 旨

取 斗 子 取 斗 子 之 旨 以 心 通 達 上 旨

取 斗 子 取 斗 子 之 旨 以 心 通 達 上 旨

北 山 山 山
山 山 山 山
山 山 山 山

文書課長

別紙

28

整



備家用トシテ是處ヨリ江川領事館送
 付ノ名義ヲ以テ本府ニテ召取ル也
 口原社藏所ニ據載ニ付候云々
 追テ如名高揚甚地海軍取方ニ関シ
 小倉ヨリ馬関從國界ニ長崎港迄
 一依被付置下付以名置也申付也

外務省



玄海丸十月七日自神戸出港、事より午後三時
 十二月、冒神戸出港ノ越後丸ニ
 輸送ノ事ニ変更スル者也

大臣

電信課長

主任

次官

主管通商局
 松村

電報第五三五號 明治三十一年十一月廿六日午後四時五分 着

加藤外務大臣 右内 伊集院領事

大坂七郎
 平壤鎮南浦行銃着彈藥ヲ玄海丸
 ニテ輸送スルコトナルモ以船ノ東ニ二十日當
 地ヲ帆シテ向フ際此ニ其シテ大
 時日要定シテ軍列塞ル也ナリ且其送
 多クハ自送ノ要スル可成早便ニ送
 けりタシ右念ノ為電報ス

外務省

明治三十三年十一月二十七日 星期二
同日發遣

通商局長

若松

電送第三二號
明治三十三年十一月八日

電報案

在仁川

伊集院領事

大臣

平壤鎮南浦行統岩驛葉、十二月四日神

戶出港、越後九、行輸送、見込甚忙着、節

通関方然、可、取

外務省

文書課長

昭和十一年十一月二十日

昭和十一年十一月二十日

要旨



急

明治三十二年十一月二十日 奉

日發遣

通商局長

主任

若松

申出信

日本郵船株式會社 通商局長

力

申出信 申出信 申出信 申出信 申出信

申出信 申出信 申出信 申出信 申出信

申出信 申出信 申出信 申出信 申出信

申出信 申出信 申出信 申出信 申出信

申出信 申出信 申出信 申出信 申出信

申出信 申出信 申出信 申出信 申出信

申出信 申出信 申出信 申出信 申出信

敬具

秋

大臣 高明

明治三十一年十一月九日
十月廿五日

通商局 杉村

會計課

藤田

藤田

機密也
請議書
佐
通商局長

鎮南浦領事館並平壤分館、銃塔三十挺、
備付支那政府駐韓領事館、同銃塔三十挺、

標定分一〇三号ヲ以テ上申有之、陸軍省ハ
外務省

交渉経緯、以テ於テ、同銃塔三十挺(彈藥共)

其代償、予讓渡ノ事案、同司ヲ於テ右ノ銃塔彈
藥ヲ交付スル、同意ヲ表シ、依テ同司ヲ韓國ニ

送達方、付、日本郵船會社、以テ付セ、仁川港

止轉送、
同銃塔三十挺、
彈藥共

申渡、予旨、同答有之、仁川港、右ノ銃塔彈藥、
特別ノ

詮議、
同銃塔三十挺、
彈藥共

右銃塔彈藥、
同銃塔三十挺、
彈藥共

5-0124

0124

機密 受第424号

明治三十一年四月十四日

陸軍省 密發第一六九號

若松

陸軍省

韓國平壤及鎮南浦領事館警備用
 トコラ軍銃之千挺及之ニ対スル彈藥并附屬
 品各代價讓渡之件 横密送第ニ八一号照會
 之趣 承認 在付テハ「スナイドル」銃之千挺彈藥
 一銃ニ付百發并之附屬品共州司兵務奉殿
 ニ於テ交付 在奉 要領 五成 送付 及 四 卷
 付
 三月三十日 十月十四日
 陸軍大臣 子爵 桂 大 臣
 外務大臣 加藤 啓 明 殿

陸軍省

5-0124

0125

再回

心

機密

機密

明治三十三年十一月十五日 岩谷

明治三十三年十一月十六日 發送濟

通商局長

陸軍省 陸軍大臣 陸軍省 陸軍大臣

在韓國

機密送第62號

外務大臣

林公使

今段平壤、鎮南浦、南浦、居民、官商、
迅速之俄強、出候、度、閣、二、三、於、於、於、於、
不、要、之、認、之、更、之、居、民、自、衛、上、有、自、代、
外務省

領事館備付之銃器三拾挺、定、增加、
方、之、減、密、月、二、三、日、付、持、若、一、日、之、号、
以、之、申、候、之、趣、致、之、候、仍、之、陸、軍、省、
提、議、之、上、有、自、代、領、事、館、備、用、ト、シ、テ、
ナ、イ、ド、ハ、銃、六、拾、挺、彈、藥、一、銃、ニ、付、十、百、發、
附、屬、品、也、代、價、廉、宜、候、旨、奉、
此、候、日、本、郵、船、會、社、漢、口、支、店、
京、師、支、店、定、行、領、事、館、備、用、ト、シ、

再廻要ス
仁川、鎮南浦、南浦、居民、官商、
迅速之俄強、出候、度、閣、二、三、於、於、於、於、
不、要、之、認、之、更、之、居、民、自、衛、上、有、自、代、
外務省

送付方取斗候所仕存以う候
上可然竹板計支
申渡候旨

追々本島江川領之付別着之旨ハ

右白地領事候上之旨申渡候旨
可致音

左同代帝國領事ノ旨申渡候旨

右島古江申渡候旨

外務省

志

大臣

高明

明治三十一年十一月廿七日發送濟
同 年 月 日 發遣

通商局長

政務局

機名

在韓國

林公使

知務者

機密送第

平壤鎮南浦居民ヨリ守備兵分派
公致之義之関シ本年十月二十三日付機密
第一〇三号信ヲ以テ以上申之次第有之

外務省

候處此程原因田鉄策元ノ鎮南浦
居留人民總代ト稱シテ上意ニ函三本有
一出致シテ頻リニ對シテ水季間危險ノ事
候ヲ陳述シテ守備兵ノ派遣ヲ請致

理由ヲ覓前此置候然レニ本年北流
ノ要スル義ト存候ニ就テ軍鏡六十挺
ヲ要スル義ト存候ニ就テ軍鏡六十挺

現今和國ハ即
白多況ノ南シ
印者ナリト厚
田中ノ如ク如
クノ如クナリ
ハハハハハハハ

再廻書

入

者

一、新申越之従と既ニ通途ノ取斗致候
 一、其高木ノ後ノ状況ニ因リ警察官
 増進ヲ必要トスル場合ニハ以上申上
 年候致度此段及内訓便敬具
 追テ極メテ急ヲ要スル時ハ一昨京ニ由
 地ヨリ右邊候テ又ハ然ト存候

外務省

杉村トテヨシトモヨリトシタシハ付テ送付セヨ
ヤル

大臣

電信課長

主任

次官

主管 逓信局長 杉村

會計

電受第五五六號 明治三十三年十一月十五日 午後二時三分 着 発

加藤外務大臣 仁川 伊集院領事

第二〇號

平壤鎮南浦行軍番彈藥通函故障
本日濟州陸揚ヤリ然ニ鎮南浦ノ定期
船既ニ終航トナリ他ハ不確定ニ上ニ右
物拾九個ノ多數ニシテ普通通函ト思テ
積出シ並ニ先方陸揚通函上故障
生元ノ懸念見テ以テ陸送ノ必要ヲ認メ

外務省

依テ右ニ因テ難普脱弄訓百五拾系及普
銃ヲ轉勤巡査ニ右濱送セシメタキニ付
其費用凡ソ百圓支心特許可ノ上電送アリ

若クモ送付セヨ
ナル

大臣

贈號

總督

第拾卷

通

在

伊集院

院

大臣

貴電分三〇号申請趣行可也金

三〇日四電送又

通送第三〇卷三〇号

書 93

外務省

淨樓山整

17/12

23

明治三十三年十二月十七日起申
同日發遣 明治三十三年十二月十八日發遣



總務官附了

會計課長



文出掛 三 負田

機密 機密送第九號

五智信 智書費内田課我

領事 伊集院 吉坂

貴電 第二〇号 由中 請 係 係 係 係

有 浦 川 軍 務 隊 系 實 示 示 示 示

參 百 五 拾 八 号 電 送 係 電 報 示

外務省

三 号 一 号 中 生 係 係 係 係 係 係 係 係

斗 一 号 支 係 係 係 係 係 係 係 係

右 様 係 係 係 係 係 係 係 係 係 係

三月廿五日

奉 政務官

人事課

機密

通

人事課

平壤鎮南浦一銃器彈藥陸送件

添而市内訓打隊及平壤及鎮南浦行銃器彈藥
 ヲ搭載セル郵船會社氣船越後丸ハ天候為ノ非希
 ニ延着ニ漸々去ルナリ夕入港シ先ニ昔年ハ當國一級
 船年ニ比シ寒氣遽カ増シ大同江上流ハ結氷シタリ、報
 アリ先ヨリ鎮南浦ノ定期船ハ既ニ終航ト成其他ノ
 汽船モ天候ノ都合ニヨリハ航海セシムシト至リテ不確
 定ナリト本件荷物ハ當港國陸揚ニ付テハ我軍隊
 用トシテ何等故障ナラ當彼ニ引取ルコトヲ得先モ其
 數拾九個、多クニ違シ海ノ汽船使トスモ當港積込或ハ
 先方ニテ通商陸揚、年々困難ニシテ為ニ行遣ヒシ
 生ズルヤモ難計、秘念甚長然ルニ當彼ヨリ輕動、心
 査ハ或ハ本報、場合ニ宜キト存シ本件荷物到着迄
 出發ヲ抑サセ置キ先ニ被尋ソシテ全中ヲ保護シ
 陸送セハ最モ安全ナリト思考ス存本月十者分其脚
 電信ヲ以テ右陸送費等由支出費重清及ト先
 弟ニ有セ被而シテ轉勸書署名ノ内三名ヲ陸行セシメ
 先ハ一名ハ當時兵部ニ加降ナリテ步行ニ便ナリト存
 自手荷物ヲ携帶陸行シハ頗ル困難ナリ一ハ
 本上臨時、海船ハ先ニヨリ他同條、荷物ヲ保管セ
 シメテ海陸赴任セシメ先方者銃器彈藥ヲ陸送
 スルニハ結島ニ依リ外ナリ以テ之ニ便ナリシメ當彼ニテ
 一切荷造ヲ改送シ先ニ其數廿六個ト成送テ十二個
 余ヲ要スルヲ以テ當國ノ如キ驛站、設備缺ケ先
 ヲ以被送スル任ニ甚困難ナリ以テ陸送ハ先々

在韓國仁川港

日本領事館

人事課

機密

總務長官

金中ハ心濟方箇十申少直其存別奈ハ以右取取
ハトモ診為物安着其任ヲ全ウシタ時ハ右也查ニ名
其シ年未迄ハ亦留、時香ニ於テ他也查ニ比シ特
其留ノ貴味亦取取以之ハ及具申者教員

明治十三年三月廿七日

在仁川

領事 伊集院 彦



外務省 加藤 寛明 敬

在韓國仁川港

日本領事館

總務官閱了

明治三十三年十二月廿八日發送濟

會計課長

機密送第20號 外務省事務長官内田康哉

材意 在簡 領事伊集院君之殿

本月八日貴省領事官及事務長官之

勅命に依りて調査四名(上妻永井)の内永井は

査し水産殖産局に向ふに他三名は東京警備隊

外務省

護送名を陸路に概りたるに要するに於て

上月十日付才二。号電送之依り及電送

考右に於て三封を諸君に査すに査すに於て

査すに於て三封を諸君に査すに査すに於て

査すに於て三封を諸君に査すに査すに於て

高明

仁國

仁國領本日港川

密受第

明治三十三年

普通書

石野 啓

第五號

本月廿日機密第廿三號之旨及具申至其通
平壤鎮南浦行銃器彈藥、去月十八日陸路輸
送之及上致密昨廿七日午、子塔、到着、旨
同地社分佐主任、電報有之、存、九、不、取、取
申、多、取、取、

明治三十三年十月廿日

在仁川

領事 伊集院 義



外務省加藤 啓

222

機密第一号

當館備有銃器到着ノ件

暑ノ当港附近不穩ノ傾向有之殊々冬季結氷
 期ノ相向カ折柄居留民自衛上當館備有銃器
 フ増加スルノ必要有之趣林公使ヨリ稟申有之
 此旨ヲ以テコソナイドル銃三十挺彈藥一銃ニ百
 發并、附屬品共仁川ヲ經テ御送付相成矣趣各
 年十一月十六日付機密送第九号ヲ以テ御申越相
 成敬承右銃彈藥ハ仁川領事館ニ於テ平壤
 分館備付ノ命ト共、又々札ヲ附シ巡查、護
 送セシ陸路駱馬ニ依リ送付致来カ慶同年
 十二月三十一日平壤ヲ經テ當館着丈々領收致候
 二付不取敢電報ヲ以テ及御通報置候然ルニ運
 送途中大同江ヲ渡ル際駱馬三頭水中ニ陥落
 シ二頭ハ河岸ニ存リシヲ以テ直ニ救出シタルモ一頭ハ
 中流江底ニ沈没シタル為テ翌朝ニ至リ漸ク引揚
 ガ慶右沈没シタル一駄ハ當館行彈藥三箱
 (千五百發)ニ有之其傍着荷致候依テ檢分
 致カ慶箱中浸水シタル者ノ彈藥ハ悉皆沾濡
 シ十分乾燥セシメ置要得兵コナイトル彈藥ナ
 ヲ以テ到府使用、堪ハル模様、有之候右ハ
 甚ク遺憾、カ得共當時不順ノ暖氣ハ結氷
 ヲ以テ薄弱ナラシメ意外ノ災厄ヲ蒙リカハ并
 二カ尚濡荷分配方ニ付テハ平壤分館着ノ
 際護送巡查ハ日分館行ノ方ニ多少濡シタルモ
 アルモ使用、差支可無之、付濡荷ノ方ハ甚

在朝鮮國鎮南浦

日本領事館

明治卅四年一月廿五日

曹政務



直方

23

館ト平等分配致矣其様請求シタルモ同分館
ノ於テハ從來備付ノモノ僅サナルノミナラス免カ角
為札ニ於テ當館分ノ属スルハ一應其俵配付スハ
キモノナリ故ソ以テ其需ニ應セザリシ趣ニ於テハ
右銀器ハ當館及平壤分館ニ等分御配付ノ
事ト被存隨テ途中損害ヲ受ケタル分ハ同
シク平分可致義ト存テ得共實際上当館
ニ於テ差當リ入用ノ義ニモ無之ニ付當分爲
爲ノ俵ニ致シ亦同承知相成度此段申
進候敬具

明治三十四年一月七日

在鎮南浦

領事館事務代理士谷久米

在朝鮮國鎮南浦

日本領事



外務大臣加藤高明敬

進テ本文ノ義ハ京城我ニ使ヘモ具申致
事同抄段方念申添也

明治三十四年一月廿五日發受

善人齋藤

鎮守兼志佐

仁川領事館付巡查永井康夫ハ当館付轉勤
ヲ命セラレタル趣ヲ以テ客年土月八日水路着任
又同館付巡查上妻孝八ハ当館付轉勤ノ序ヲ以
テ当館備付銃器護送房同月三十一日陸路着
任致候間此殿方合及所報告候致具
明治三十四年一月七日

鎮南浦

領事使事役代理土谷久米



外務會計課長三橋信方殿

在朝鮮國鎮南浦

日本領事館

古29